

ビル管理会社が、企業の移転時におけるオフィスコンサル等を手掛ける事例が増えている。平成ビルディングでは昨年1月から、オフィスマネジメント業務を展開。ワークプレイスの構築をはじめ、設計・工事・完成後のフォロー迄をワンストップで提供している。

オフィスマネジメント 順調に実績を伸ばす

ト業務も生かしたワークプレイスを構築する。

平成ビルディング（東京都中央区）は、密会社である同社は、PM・BMに関する分野全般を提供するビル総合マネジメント会社。今年5月には千代田区神田の「ONES T神田スクエア」へ移転し、自社の強みであるオフィスマネジメント、ギア対策をはじめとする



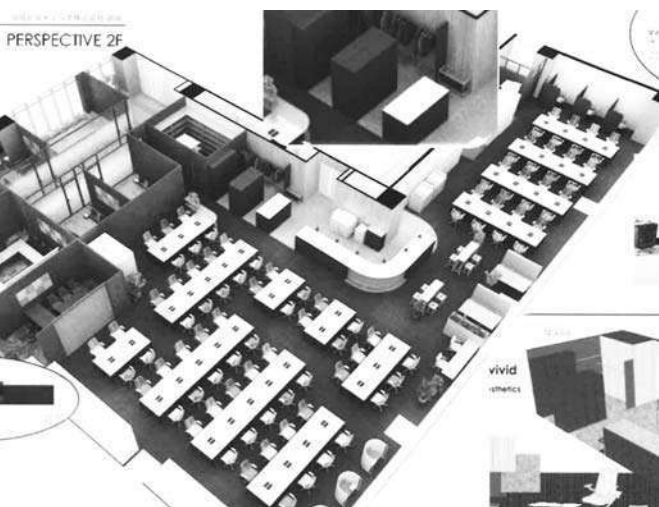
平成ビルディング
オフィスマネジメント部 課長 柳澤 俊明氏

る専門的なコンサルテーションにも対応する。特に周辺地域のマーケティングや競合ビル等を徹底的にリサーチして提供する「リーシングレポート」や保有物件の「建物等劣化状況調査報告書」などが好評を得ている。オーナーのビル経営をサポートし、空室発生や劣化・陳腐化も未然に防ぐ。先を見据えたビル管理まで、トータルかつワンストップで手助けできる。

今年5月に本社移転 7から2フロアへ集約

それぞれのサービスが上手く連携し、企業に適したワークプレイスを構築。単なるオフィス移転やレイアウトの見直しではなく、ワーカークの居心地や快適性も維持しながら、効率的な環境整備に込めている。

具体的な取り組みでは、全席フリーアドレスではなくグループアドレスや一部でのフリーアドレスを採用したこと。一斉にフリーアドレスを採用するので、既存の良い箇所や機能も生かしながら新しいことに慣れていく。また社員は、新たに設けた「集中作業スペース」や「休憩室（リフレッシュスペース）」が使用できる。窓際の有効活用として、集中作業スペースを設けて、普段は社員同士で意見を交えながら業務を行い、1人で集中する際には当該スペースを使用できる。休憩室も気軽に利用できる。ようにして、社員の気分転換にも役立てる。格納や書類保管では、ペーパーレスを進め、データによる管理・保存を中心に行う。キャビネット数は、現在の4割程度まで削減予定。紙での保管量は更に縮小を視野に入れている。



▶全席フリーアドレスではなく、グループアドレスや一部のフリーアドレスを採用した

トの4つを提供。その

ない企業に合致する提案とします。移転のタイミングで、自社のワークプレイスやワークスタイルを今一度見直す機会に活用できま

既存新規の組み合わせ ハイブリッド型で運用

ト部の柳澤俊明部長は「自席では社内データベースと有線が接続して大型モニターやキーボードも付

ハイブリッド型を選んだ決め手の一つに、常時活用できるインフラ整備が挙げられる。ビルメンテナンス

来通り利用できる一方、オフィス内にWi-Fiを完備し、会議室や集中作業スペースなどオフィス内のどこに居てもデータベースにアクセスを可能にした。会議室にはオンライン会議用設備を標準配置し、遠隔ミーティングを適時かつ簡単に実施できる環境を整えます。既存と新しいを組み合わせた「ハイブリッド型」で運用し、改善点はその都度キャッチアップしていきま

会社にとって

- エンゲージメントの向上
- ウェルネスの向上
- グループシナジーの発揮
- サステナビリティの向上・SDGsへの取り組み
- ファシリティコストの最適化
- オフィススペースの効率化

従業員にとって

- 生産性の向上
- 自立心の向上
- 他部署との連携
- 意思疎通の迅速化
- 職場環境の改善
- 魅力ある職場
- 女性にとって働きやすい職場環境



▲単なるオフィス移転やレイアウトの見直しではなく、ワーカークの居心地や快適性も維持しながら、効率的な環境整備を行う。改善点があればその都度キャッチアップする。